

# 光 彩 だ よ り

2009年秋号（2009. 10. 30発行）

- |                                    |             |
|------------------------------------|-------------|
| ★精神障害者通所授産施設 京都市朱雀工房               | ★グループホーム賀陽  |
| ★京都市中部精神障害者地域生活支援センター<br>「なごやかサロン」 | ★グループホーム山ノ内 |
| ★就労継続支援A型事業所 ワークステーションかれん工房        | ★グループホーム光   |
| ★就労継続支援B型事業所 西山高原工作所               |             |

《発行》社会福祉法人 京都光彩の会（発行責任者／上村啓子）

〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1-15 京都市こころの健康増進センター3F

TEL: 075-314-0835 FAX: 075-314-0781 E-mail: info@kyoto-kosainokai.jp

URL: <http://kyoto-kosainokai.jp/>

## 「障害のある人の自立が実現できる法に」

社会福祉法人京都光彩の会

統括施設長 上村啓子

さる8月30日に行われた第45回衆議院選挙の結果、自民党政権から民主、国民、社会の連立政権に交代しました。新政権は雇用、介護、障害など社会保障において新機軸を打ち出しています。障害者政策は大きく転換することが予想されます。民主党はマニフェストで「障害者自立支援法」を廃止し、「障がい者総合福祉法」を制定すると明記しています。

利用したサービス費用の1割を負担する「応益負担」から収入など負担能力に応じて利用料を支払う「応能負担」に変更し、法の谷間にある発達障害者、高次脳機能障害者や難病者なども対象にし、安定的に支援を提供する体制をつくることなどがその内容です。

「障害者自立支援法」では、さまざまな問題があります。精神に障害のある人たちは、無年金の人も少なからずおり、工賃も世界同時不況で下がってきている状況で、利用料を負担するのは大変なことです。働いているのに利用料を支払うのは納得がいきません。就労継続支援事業A型では、雇用契約を結んでいる労働者なのに何故利用料を払わなければならないのでしょうか。また、サービスの利用をするにあたって受ける障害程度区分認定では、介護保険のシステムを踏襲し、身体的な介護に要する時間で障害が計られることが基本になっているために、精神に障害のある人たちの障害が軽く出てしまい、きちんと障害が認定されません。

支援をする側にとっても、報酬の日額払いや職員の非常勤化、事務の煩雑さなど課題が多く感じられます。就労に力点を置かれすぎ、生活支援を行っていても評価されません。

使いやすく、わかりやすく、真の意味で障害のある人たちの自立に向けて支援できる法が制定されるようにしていくことが必要です。

当事者やご家族の思い、福祉現場からの意見を反映させていきたいと思います。これからもご協力、ご支援をお願い申し上げます。

# 京都市朱雀工房より

## ■朱雀工房の近況

現在、朱雀工房のメンバーは22名と増え、活気に満ちています。

今年度から久世工業団地の中にある「勝山製本所」で施設外での実習が始まりました。

主に会社では補助的な仕事が多いです。しかし、実際の企業がどんな様子でどういう動きをしているかなど、普段体験出来ない事をさせて頂いています。実習に行っているメンバーには就労に向けてとても良い刺激になっていると思います。

所内の仕事は不景気の影響を受け仕事は激減しています。メンバーの増加と仕事減で各人に渡せる工賃も減って来ています。どこか良い仕事があれば是非、ご紹介下さい。よろしくお願いします。

(梅沢 作業療法士)

### 新しく通所されている利用者の 方達に感想を書いてもらいました。

#### ●三村武士さん

朱雀工房に入所してから、もう半年以上経ちました。通い始めの頃は、久しぶりのフルタイム勤務というもあって、作業を終えて帰宅し、夕食後に入浴して、あまりに疲れていてうっかり朝まで風呂の中で寝てしまうという事もありましたが、今では大分慣れてきて、現在では作業後の時間を趣味にあてるゆとりも出来ました。

私は朱雀工房にお金を稼ぎに来ているのではなく、“人とのコミュニケーションの訓練”に来了います。だから、元々私は口数が少ない方なのですが、ここでは積極的に人と話すようにしています。入所以来、色々なことを学びました。今後も真剣に作業に取り組み、「就労」という目標に向かって頑張ります。

#### ●Sさん

早いもので朱雀工房にお世話になりだしてから、もう半年近くになる。

20年間、看板屋として、馬車馬の様に働き続けてきたが、この不況の煽りを受けて、昨年7月末日をもって廃業。すぐ次の仕事を探して、働きだしたが続かず、精神的にどん底の状態におちいってしまった。

朱雀工房に通い出して感じるのは、朝起きて出かける場所があるのが、どれほど有難いかという事である。朝起きて、一日何の目的も無い程辛いことは無い、と思い知らされた。

今、現在の私の心境としては、方向性を見失って、迷路の中で堂々めぐりしているというのが、正直な感想であるが、自分では気が付かず、朱雀工房の職員さんによって、見えていなかった自分が見えてきたという事が新しい驚きである。

私は48歳と、世間でいう「おっさん」であるが、焦らず、慌てず、じっくりと構え、朱雀工房内で色々な経験をさせて頂いて、10年後の自分を見据えていきたいものである。

#### ●林 茂之さん

9月から朱雀工房にお世話になってます。まだ箱折もまともに出来ませんが、スタッフの方や、先輩方のお陰で何とかやっています。私は発病して、11月で5年になりますが、最初の2年は家で引きこもってました。それから2年はデイケアに通いだし、少しずつ元気になりました。昨年8月から3ヶ月、障害者職業センターに通い訓練を受けました。

障害者職業センターを修了後、就職活動を行っていますが、うまくいかず今に至っています。これからも時々、就活で休んで、

ご迷惑を掛けますが、それ以外はがんばりますので宜しくお願いします。

● T. Sさん

9月から朱雀工房に入所しました。今日で1ヶ月あまりになります。

朱雀工房を利用する当面の目標は、1週間フルタイムで通えるようになることです。

現在の作業は、箱折りが中心で、職員の方や先輩の方々の指導に従って頑張っています。

入所当初は緊張で夜も眠れないくらいでしたが、今は施設の雰囲気や作業にも少しずつ慣れて来ているようです。

また、入所当初よりも体力がついてきたようで、休みの日もショッピングなどをして活動する元気が出てきました。さらに、朱雀工房に通うのが少しだけ楽しいと思えるようになってきました。

朱雀工房利用の最終目標はオープンでの一般就労ですが、それはあまり意識せず、フルタイムで通うことや、さらに新しい仕事をさせてもらうことなどを達成して、段階を踏んで、目標を達成したいと思います。

■配食事業の紹介

朱雀工房では、京都市社協から委託を受けて高齢者へのお弁当の配食事業を行い、日々メンバーや職員が配達しています。メンバーの声をご紹介します。

朱雀工房の近くで新しい配達先をご存じの方は、ケアマネさんにご相談の上、ぜひご一報をお願い致します。

● S. Yさん

朱雀工房に来て約一年と少し、弁当配達をさせてもらってほしい7ヶ月ぐらい。はじめは道など覚えられるかと不安だったが、まあだいたい10軒ぐらいは覚えめました。うちの弁当配達の衛生面は本当に徹底していると思う。配達に行くお家が、ご老人達なので衛生面には本当に注意しています。普段は朱雀工房内で箱折りばかりやっ

ているが、11時からの配達は本当にいい息抜きになります。大体1日に2軒から3軒なのでまあそんなには苦にならず、社会復帰に向けていい経験になると思います。だいたい朱雀工房は1年半から2年くらい通所してぼちぼち社会復帰したいと思っています。



〈ある日のお弁当の一例〉

■ S S T

（対人技能訓練）を楽しんでいます！

人とうまくコミュニケーションをとるのは誰にとっても大切なことで、なかなか難しいことです。また働くときには、コミュニケーション技能が求められます。

そこで、朱雀工房では、自分の気持ちを伝えるにはどうしたらよいだろう、会話に加わるにはどうすればよいのか、苦情をうまく言うにはどうするのがよいのだろう、求職面接を受けるときのやりとりはどうすればよいのかなどなど、意見を出し合いながら実際に練習をしています。自由参加で、それぞれの目標から共通した課題を見出して、練習内容を決めて行っています。

「とてもうまく言えたね」「こんな言い方をしたらもっとよくなるんじゃないかな」と互いに助け合って練習しています。練習したことを早速実行したメンバーもいます。スタッフもメンバーも真剣です。スタッフ自身のコミュニケーション技能のつたなさを感じさせられることも多いです。みんなで日常生活に活かせるものになるようにしていきたいと思っています。

# なごやかサロンから

京都市中部精神障害者地域生活支援センター「なごやかサロン」

## ◆地域活動支援センターからの報告

サロンとして、食事サービス〔水～金（夕食）土日祝（昼食）〕や、プログラム活動を中心に利用者の方に居場所を提供しています。居場所としての活動について、いくつか紹介します。

### 【食事についてのお知らせとお願い】

平成 21 年 4 月 1 日より、毎週水曜日の食事提供を、同法人で配食事業を行っている「かれん工房」に外注することとなりました。支援センターとして相談支援に力を入れていくなかで、平成 18 年 10 月から夕食の提供日を一日少なくする（月曜日）という経過がありましたが、これまでのことも含め、食事サービスについて利用者の方との話し合いを行った結果「食事サービスを継続してほしい」という声が強く、そのニーズに応えるために、かれん工房の協力を得て今回の配食利用となりました。

外注するということもあり、改めて食事の予約については「平日は当日の午前中（13 時）まで」「土日祝は前日中まで」という決まりを守って利用してほしいと思います。今後も食事提供を続けていけるように、ご協力をお願いします。

### 【福井県“ほのぼの会”からの見学受け入れ】

平成 21 年 9 月 19 日（土）に福井県の当事者・家族への支援をおこなっているボランティアグループ“ほのぼの会”から、当事者、ボランティア、支援センターの職員、合計で 45 名の方が、なごやかサロンの見学にみえました。大人数であったため、普段使用している食堂とは別の部屋で食事をとってもらい、サロンの利用者の方と交流会をもちました。交

通事情により滞在時間が非常に短くなってしまい、慌ただしくなってしまったことは残念でしたが、見学者の方からサロンや京都のことについて活発に質問がなされ、貴重な交流の場となったと感じています。

### 【行事予定ミーティング・話し合い】

なごやかサロンのプログラムの一つである“行事予定ミーティング”と“話し合い”について紹介します。“行事予定ミーティング”は、今月の行事の振り返りと来月の行事を決めるための場です。行事を決める時は、主に「所外レク」「お助け講座」「ビデオ上映会」それぞれの内容について参加者で話し合いをします。この枠に限らず、やりたいことがあれば提案してもらっているのですが、たとえば 8 月に行った「卓球大会」や、9 月、10 月に行った「ストレッチ運動」などは内容として新鮮であったと思います。

現状では、行事予定ミーティングの参加者が、実際のプログラム参加者より少なくなってしまうというさみしさがあります。利用者にとって魅力あるプログラム、自分のやりたいことができる場所になるかどうかは、利用者の方が（職員もですが）普段感じている思いをどれだけ話し合うことができるのかによって決まってくると思います。なごやかサロンという居場所を大切にしていくためにも、“行事予定ミーティング”や“話し合い”について多くの方に関心を持ってほしいと思っています。

（吉水・山本）

## ◆「相談支援事業」について

障害のある方やそのご家族等からの相談や悩みなどをお伺いし、情報提供や助

言、解決に向けての必要な支援を行っています。月水木金の9:00~20:00、土日祝の9:00~16:00において、電話やなごやかサロンへの来所、ご自宅等への訪問等、様々な形で相談に応じています。中には、地域活動支援センターのプログラム等での関わりを通して、相談に結びつくケースもあります。また、なごやかサロンは指定相談支援事業所として「サービス利用計画の作成」も行っています。何かお困りのことがありましたら、スタッフまでご相談ください。

(萩原)

#### ◆中部地域自立支援協議会について

昨年、中部圏域の自立支援協議会が設立されて以降、同圏域の「らくなん」「にしじん」の各支援センターとともに事務局としてその一翼を担わせて頂いています。圏域の地域課題・ニーズを明らかにするため、障害福祉サービス事業者の皆様の協力の下でアンケートを実施し、その結果をまとめ、京都市の協議会へ「提言」として報告を行いました。また、浮かび上がってきた地域課題・ニーズとして、共通する内容、また実際に役立つものとして「家族支援」を取り上げ、研修会を開催しました。更に、自立支援協議会についての理解、周知を図るため、全体会議と合わせて、圏域のみならず、全市の障害福祉関係者を対象に講演会を開催しました。10月には、お互いを知って地域での連携を図るために、圏域の事業所等からの報告をお受けしての研修会を開催しています。障害分野や事業の種別を越えて、圏域を意識しての現場での今後に向けた相互理解と交流、連携が始まっていると思います。こうした中で、地域において求められる役割があり、これからの期待がこめられた歩みに、少しでも寄与できる場があることに大変感謝しています。

(藤井)

#### ◆京都府精神障害者退院支援事業（地域移行支援特別対策事業）について

2000年度に大阪府から始まった『退院促進支援事業』※は、2003年度から国の事業になったことにより、各都道府県・地域の実状に合わせた多様な形で徐々に浸透してきましたが、2008年度からは『精神障害者地域移行支援特別対策事業』として受け継がれ、全国で実施されつつある状況です。事業の名称に変化はありますが、精神科病院に長期入院されている人へ寄り添い、退院支援を行っていることには変わりはありません。地域移行支援という名称が示すように、病院と地域が密に連携をし、さらなるつながりを充実させ、その人らしい安心できる生活を支えていくことが重要な課題となっています。

なごやかサロンが委託を受けている京都市内においては、4年が経過しました。自立支援員として、退院したいという人の想いにふれ、その人の人生の一部に関わるということの難しさを日々感じながら関わらせてもらっています。まだまだ模索をしながら事業を進めている現状の中で、「私たちに何ができるか」ということを考えながら、退院を望まれている人の「夢」や「希望」を叶えるために、本人と一緒に退院までの道のりを歩んで行ければと思います。今後ともご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

(自立支援員 渡辺・山縣)

※退院促進支援事業は、なごやかサロンから自立支援員が病院へ訪問し、入院が長くなっている人に対して、それぞれの希望にそって退院に向けてのお手伝いをする事業です。





# ワークステーション かれん工房

## ワークステーションかれん工房

施設長 中島 康典

今年も色々と入退所を含めて、異動及び活動がありました。1月1日付けでD氏が介護補助員として特別養護老人ホームに採用となりました。

14人の従業員から13人に減り、喜ばしいことではありましたが、少しさびしくなりました。

しかし、9月28日から新人さんが朱雀工房から利用移動により活気を取り戻しています。

また、毎年多くの出店に参加して売り上げを伸ばしていますが、今年は「ビルメンヒューマンフェア'09 in 京都」が（社）京都ビルメンテナン協会主催で開催されました。全国のビルメンテナン協会が京都に会して10月18日（日）から20日（火）まで様々な催しが行われました。京都市朱雀工房とワークステーションかれん工房も協力して、この会場で19日（月）、20日（火）と2日間に渡って出店をさせていただきました。作っても作っても足りない程の売り上げがあり、何年に一度しか回って来ない大きなイベントに参加させていただき感謝しています。今後とも年に一度開いていただいている清掃講習会を引き続きお願いします。



かれん工房のパウンドケーキ&お弁当

## 〔従業員からの感想〕

9月25日に、朱雀工房を退所して、9月28日から「かれん工房」に入所することになりました。「かれん工房」では、作業の内容が朱雀工房とは違って全く新しいことをやることになりました。これからは、朱雀工房の厨房、清掃、西新道に行ったりと「朱雀工房」に出張することもあります。私は、これから「かれん工房」で朱雀工房では、やってこなかったことをやりながら作業にすこしずつでも慣れていきたいです

Yさん

8月6日の午後から佛教大学に「お茶」と「乾燥こんにやく」を3人で売りに行きました。午前中は「朱雀工房」の人達が商品を売っていて12時から「かれん工房」の3人に任せられました。当日は、大学のスクーリングで夏休みなのに学生がたくさんいました。昼の3時頃まで佛大にいましたが大学の教授が学生を10人以上連れてきて、「お茶」や「乾燥こんにやく」を買ってくれました。帰る前に大学の先生方が商品を買ってくれたのでけっこう売れました。

Yさん

5月7日から、2度にわたって手術のため入院していました。病名は「脳腫瘍」という病名で右と左に2つできていました。頭がい骨に血が少したまっていた。2～3ヶ月に1回検診があります。

KYさん

## 訪問介護ステーション光彩

訪問介護ステーション光彩の存在も居宅介護の方では少しずつ知られる様になってまいりました。中でも精神や精神重複障害者の方の依頼が多く事業所としては、介護保険の高齢者の方にも利用していただける事を目標に三年目を迎えたいと思っております。

（夏見）

# 西山高原工作所

暑さも和らぎ過ごしやすい気候になってきました。この時期、作業のほかにも地域の行事への参加も増えています。そんな日々の様子をメンバーの声を中心に伝えします。

## 〈ちいさな秋のころまつりに参加して…〉

準備や片付けなど裏方で動くのも楽しかったし、参加している人に、ころまつりを喜んでもらうことを考えながら司会を進めていくのが楽しかった。次は、参加している人の反応を見ながら、文章を区切って伝わるように司会していきたい

(IMさん)

## 〈ふれあいの里秋まつりに参加して…〉

ちびっ子がたくさん来ていたので、ちび帳を勧めて買ってもらえて嬉しかった。たくさん売れたので楽しかったです。良かったと思います。

(IFさん)

去年に比べて、予想以上に商品が売れてびっくりでした。話しかけ方が良かったのがプラスに働いたと思います。自分は陶芸のいいコップが買えて嬉しかった。使いごこち最高です。陶芸の1日体験してみたいと思いました。

(NMさん)

## 〈ミレニアムライオンズクラブあき缶ひろいとバーベキューに参加して…〉

よく見たらゴミあるなあと思いながら拾っていきました。タバコ・バーベキューの後のゴミがビニール3袋位たまりました。お腹いっぱい食べて美味しかったです。家に帰ってからよく眠れました。来年も参加したいです。

(OFさん)

たくさんの人との交流はもちろんのこと、作業とは違う雰囲気の中で時間を共有してみると、普段とは違うその方の一面を感じることが多くあり嬉しくなります。

また9月より作業の充実にもむけて新しい取

り組みも始めました。『京都ほっとはあとセンターの専門家派遣事業』です。縫製部門で行っている独自製品の開発や技術力の向上を目指し、講師の先生に1ヶ月に2度ほどパッチワークを教えていただいています。

## 〈講習に参加してみて…〉

パッチワークは難しいと思っていました。間隔をあけて少しずつ丁寧に教えてくださるので、あまり手芸をやったことのない私でも出来そうな気がしました。楽しいです。

(TFさん)

縫製部門の丁字帯等は直線縫いを主にしており、それを活かした製品作りをしていきたいと考えています。縫製班に限らず生活の中でもパッチワークをやってみたいと考えているメンバーも交えて、この時間を楽しみながら未知の可能性と、どんな製品が継続して作れるかを一緒に話し合い進めていきたいと思っています。ただ、充実という意味では作業だけではありません。新しく通い始めたKさんは、「以前は、家にいることが多かったけど通所するようになってからは日々充実しています。いろんな人と話をしたり仕事をできるので気が紛れます。後々、就職したいという希望はありますが、今は居心地が良いのでここにいたい気持ちがあります。」と教えてくれました。

施設の利用というのは、作業能力を高め就職へ…というだけではなく、まず安心して通う場所があること。自分で充実していると思える日々を過ごし、自分の道を見つけていけるようにすることが誰にとっても大切なはず。支援する側は、その方の気持ちに沿い、その方の立場にたった視点を忘れてはいけなさと気づかせてもらえる言葉を聞くことができ、日々のコミュニケーション1つ1つのやりとりを大切に支援に繋げていきたいと改めて感じています。これからもご支援をよろしくお願い致します。

# グループホームより

## グループホーム賀陽

### グループホーム賀陽 10周年を経て 世話人 中東 清美

10年前、自立支援を掲げてまっさらな気持ちでグループホーム賀陽は船出をしたものでした。これからの困難が予想できるほどの知識も経験もなかった事が嬉しいな気持ちで開所に踏み切れたのだと思います。それにもう一つ忘れてはならない事は近隣の方の暖かい見守りでの受け入れがあった事です。町内の方々には今も感謝しています。

建物や設備などの環境整備は使用しながら改善を重ねてきました。支援のあり方も運用しながらの改善でした。

小さなテーブルに6人が寄って、誰からともなく自分の事を語りだしたら、次々と話が続き不安な気持ちが消えていった開所初日の夕方の光景が鮮明に思い出されます。また、眠りに就けなくて困っていた人を慰めに行った世話人が先に寝てしまい、目覚めたら皆朝ご飯を食べていました。また、最初の夏はホールのエアコン1台で皆が涼を取ったので、各部屋の入口を全開にして部屋を涼しくしてから戸を閉めて眠りました。今思うと、皆本当によく辛抱してくれました。少しずつ生活に慣れ、仲間たちと楽しむ事を見つけ出して、グループホームの暮らしの流れが出来ていきました。

やがて新しい暮らしを求めて最初の一歩を踏み出されると、二人目、三人目とこれも自然な流れとなってグループホームでの暮らしを卒業していきました。ところがある年月が過ぎた頃から、自立するんだという勢いが緩やかになってきました。長い入院生活から新しい生活の場を求めてこられた方や、それまでの生活

が病気その他の事情で継続困難になった方などが増えてくると、ホームでの暮らしを長く楽しみたいという希望が強くなるようですし、一方では年齢が高くなったり脳梗塞の後遺症などで身体障害があったりすると、自立して暮らす事にハードルが高くなり、退居への勢いが自然と緩やかになります。

ひとりひとりへの自立支援をゆっくり丁寧になされる事が求められるようになりました。色々なニーズに合わせた社会資源も増えており、これと結びつける事も大切な支援となってきました。現在は個人支援に重点を置き、各々が求めている生活スタイル、将来への見通しなどを見つけ出し、検討する支援をしてその人が求める生活へつなげていく努力をしています。グループホームが入居者の暮らしのステップアップへ役立つ場となる様願っています。

最後に29名もの方がグループホーム賀陽を利用して下さった事に深く感謝申し上げます。皆様に利用されてこそその10年であり、10年の歴史は皆様が作って下さったのです。これからも皆様の応援を支えにして歴史を積み重ねていきたいと思っています。それから、なごやかサロン、朱雀工房のスタッフの皆様に、裏から表からいろいろにご支援いただきました。本当に有難うございました。

祝10周年

グループホーム賀陽  
10周年

グループホーム山ノ内

グループホーム光



# 法人からの報告

## ● ピアサポート交流会

昨年、精神に障害のある当事者の方々がそれぞれの仕事や社会参加の体験を話し合い、互いに支えあう輪が広がることを目的として交流会を2度実施しました。今年からは3ヵ月に1度のペースで、なごやかサロンの事業としてピアサポート交流会として実施することになりました。

第1回目は4月25日に行い、2回目は7月25日、3回目は11月7日です。毎回20名余りの参加があり、仕事や日常生活、趣味などいろいろな話題が出ています。施設、事業所、デイケアに通っている人、企業で働いている人、独自に活動している人、いろいろな人が集まっています。ご自身の体験を話したい方、互いに支えあうことにご興味のある方、お気軽にご参加ください。

京都市朱雀工房 上村

## ● 平成21年度清掃作業講習会が お陰さまで修了しました

今年も京都ビルメンテナンス協会のご支援を得て、清掃作業講習会を行いました。今年から講習内容が替わり、多くの方からの問い合わせを頂きました。初級・中級では12人の応募があり、全員無事終了することができました。上級では10人の応募があり、お1人が体調を崩されリタイアとなりましたが、9人が修了することができました。特に上級では。アビリンピックの清掃競技を視野に入れた講義内容に受講生の中にはプレッシャーもあったようですが、講師の先生方の熱心で一人一人に沿った訓練と、受講生本人の集中力、周囲の皆様の温かい励ましで中身の濃い講習会となりました。

この講習は資格にはなりませんが、清

掃作業の専門的な技術を身に付けていただく為のものです。来年度も同様に行う予定ですので、募集要項をお確かめの上、ぜひ応募して下さい。

京都市朱雀工房 斉藤

## ● 職業訓練「OA基礎科」が 修了しました。

平成21年6月から9月までパソコンの基礎技能を身に付け、就職を目指す職業訓練であるOAを実施しました。受講生15名が月・水・金・土の9:00～16:30まで、エクセル・ワード・インターネット・メールの基礎から学び、MOS試験合格を目指して頑張りました。MOS試験は、受講生の努力が実り、多数の合格者を出すことが出来ました。また、ビジネスマナーやSSTも行い、生活習慣や仕事をする上で必要な技術も身に付け、就労する準備を整えていきました。残念ながら2名の退校者がありましたが、暑い時期の3ヶ月間の訓練を終え、それぞれの受講生が自信をつけ、仲間と共に成長していったことを実感しています。これからも求職活動が続いていきますが、訓練を通して得た技術や自信を忘れず、これからの活動に活かして欲しいと思います。

京都市朱雀工房 青木

## ● 「OA基礎科を受講して」

M.Tさん

私は、OA基礎科を3ヵ月間受講しました。初めは、パソコンのしくみや初歩的な操作から入っていきました。なんとか少しずつ訓練にも慣れていきました。他の訓練生の真剣な姿を見ると、私も頑張らなくては、という気持ちになりました。

パソコンの講義だけではなく対人技能訓練というビジネスマンの講座もあり挨拶や心がまえも勉強でき、グループに分かれての活動でより楽しく学ぶことができました。友達もでき仲良く学ぶ事が出来ました。暑い中を体調も崩さず、毎回参加することができました。高松先生、石川先生、大久保先生も気さくに接してくれて、とても安心して受講できました。私は、一般事務などでパソコンやビジネスマン講座で学んだ事を生かし就職活動して行こうと思います。

### ●職業訓練「介護サービス科」開催 がんばれ、受講生！

平成21年9月から介護訪問員（ホームヘルパー2級）の資格を取得し、就職をめざす職業訓練である介護サービス科を実施しています。今年で5回目になります。応募者30名のうち10名が体力考査、面接により選考されました。受講生は月、水、金曜の12時半から3時50分まで福祉制度や高齢者・障害者福祉や医学などの座学講座や車いす。食事、排泄などの介助技術やサポートについて演習を受けます。12月からは特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどで職場実習を行います。講師には精神障害に理解のある先生方にお越しいただくようにし、時間配分には配慮していただいています。内容的には充実したものです。受講生は熱心に講座を聴き、講師との質疑応答も真剣です。

4ヵ月にわたる長い訓練ですが、全員無事修了し、就労できることを願っています。

京都市朱雀工房 上村

いつも  
ありがとう  
株式会社 朱常分店さま

バナナありがとうございました。

利用者の休憩時間におやつとしておいしくいただきました。

ご寄贈を50年、100回も続けられているとお伺いしました。半世紀にもわたって寄贈を続けられるのは並大抵のことではありません。そのご好意に感謝と敬意を表します。ありがとうございました。

### 京都ミレニアムライオンズクラブと 桂川の清掃をしました。

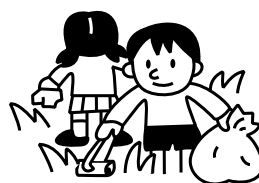
10月18日の日曜日に桂川で河川敷に落ちているペットボトルや空き缶やゴミなどを拾ったあとバーベキューをしました。この行事はライオンズクラブの環境保護活動の一環として京都光彩の会の各事業利用者とメンバーも一緒に2002年から行っているものです。

今年は、前日の雨が止み、秋晴れのすがすがしい天候の中、1時間ほど清掃をしましたが、思ったよりゴミが集まり、



(桂川河川敷でのひととき)

爽快な気分になりました。そのあとライオンズクラブの皆さんが用意してくださったステーキ用の牛肉やいかを焼いたもの、焼きそばや豚汁をたくさんいただき、会話も弾み、楽しく過ごしました。



## ●職員の入退職

10年ほど勤務していただきました栄養士の山内やす恵さんがお辞めになりました。朱雀工房の配食サービスを軌道にのせるのに大変ご尽力をいただきました。ありがとうございました。新しい職場でもご活躍ください。

## ●新しい職員を7名お迎えしました。

◇「生活支援員」田上 嘉之  
(たのうえ よしゆき)と申します。

今年の7月より「なごやかサロン」に配属された田上嘉之(たのうえ よしゆき)と申します。主な担当は私どもの法人が運営する3つのグループホーム・ケアホームの生活支援員、その1つ「グループホーム光」の世話人として、入居されている方の生活を支えるため相談にのったり、一緒に取り組んだりすることです。

これまで一般企業と、知的・精神障がい者のグループホームで勤務していた経験があります。ともに喜んだり、ともに悲しんだり、そうした生活の一つひとつを大切にしていきながら仕事をしていきたいと思っています。あと、京都は郷土の英雄「坂本龍馬」が颯爽と駆け巡った街でもあります。およそ250年たったいま、龍馬と同じようにこの街の空気を味わうことができるのも何か特別な力を与えてくれるような気がしてなりません。

◇「経理補助」の  
「石川 彰彦」と申します。

4月27日より、かれん工房の事務室で勤務しています。小口現金の出入について、領収書を整理、伝票や出納帳の記入が主な仕事になります。朱雀工房におら

れる経理の田中さんより電話で具体的な業務の指示をいただいております。ずっと机の前に座ったままの地道な作業になりますが、かれん工房の明るい雰囲気、職員や利用者みなさんの楽しいやりとりに、時々忍び笑いをもらしながら、リラックスしてのびのびと働かせていただいています。

◇はじめまして。10月より  
【職業生活支援員】

として半年間お世話になります  
高松 崇(たかまつ たかし)と申します。

今年のOA基礎科のインストラクターをさせていただきました。

職業生活支援員とは、京都市の就労支援策により職業訓練等のOB会の立上・開催や、利用者の方の連絡体制作り、職場定着支援のノウハウに関するマニュアル作成等、利用者の就労活動の支援や職場定着の支援等、生活・就労・訓練さまざまな場面でのバックアップをさせていただきたいと思っています。

短い間ですが、お気軽に声を掛けていただければ幸いです。

次に授産事業の振興や利用者のスキルアップをめざして導入されたほっとはあとのづくり支援事業ほっとはあと製品応援事業案内から派遣事業により、お越しいただいている4名の方をご紹介します。

◇「ものづくり支援員」の  
「小出 喜代藏」と申します。

私に、与えられた任務は、主としてパソコンを活用した業務です。今や「コンピュータ時代」と言われてから久しいわけですか、その分野が「小型化・複雑化」

するにつれ益々広がっています。最初「朱雀工房」で、業務全般に亘りご指導を受け、その後「ワークステーションかれん工房」へ参りました。コンピュータに携わって40年余りになりますが、今までの「経験」を生かせる楽しい職場だと思います。今年の9月から来年3月までの7ヶ月ではありますが精一杯頑張りますのでよろしくお願い致します。

#### ◇「栄養士」の 「岡本知子」と申します。

以前は、病院や高齢者の福祉施設に勤務していました。毎日の3食は、日常の食事という感じでした。

でも、「朱雀工房」では、今まであまり使用しなかった食材や、料理を見かけることがあり、形態によって食事もかなり違いがあるんだと実感しました。

#### ◇「製菓専門員」の 「中村 豊子」と申します。

「ワークステーションかれん工房」で授産製品のパウンドケーキやクッキーなど指導しています。「カトリーヌ」という洋菓子店を経営しています。

#### ◇「縫製講師」の 「安田 幸子」と申します。

このたび、ご縁があって、西山高原の皆さんと一緒に「パッチワーク」を楽しむ機会をいただきました。

今回は、ミシンを使って、直線縫いでできるパターンに挑戦しています。

色んな表情をもった布を自由に組み合わせ、皆さんの遊び心豊かな個性、溢れる作品ができればと思っています。

### 《編集後記》

今年も、あと余すところ2ヶ月で平成22年の新年を迎えることになりました。

「光陰矢の如し」と申しますが、一日一日が大切だと思う日々です。

日本の将来を担う政権も大きく様変わりしつつあります。世界の政治、経済、気候までも変貌しています。揺らぐ世界の中において、私たちの生活を揺らがないためにも精一杯働かなければならない事は言うまでもありません。

各施設の利用者さんの言葉を編集して感じてことは、仕事に対する取り組み姿勢が前向きであり、やりがいを感じておられることです。この気持ちが健康の糧となり、自立していく過程ではないでしょうか。社会に「貢献できる自負」の気持ちが大切だと思います。

来年は「虎年」です。「虎は千里行って千里帰る」諺のごとく「勝れた行動力」を持って働きたいと思います。

(小出)

